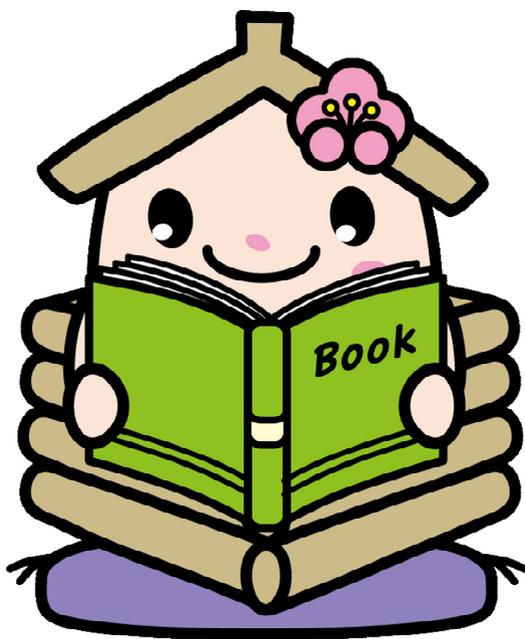


小学校5・6年生におすすめの本

2019

# ブックセレクション



酒々井町立図書館

## 『ゴエさん』 見913ユ

結城乃香／作 朝日学生新聞社

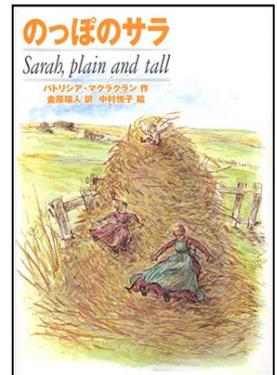
幸太郎は江戸時代から造りしろうゆを営んでいる家の一人息子ですが、家業は経営不振、お父さんはやる気なし、お母さんはイライラ。そんな暗雲立ち込める家に、ある日汚いおじいさんが転がり込んできます。そのおじいさんはずっと昔の約束を守るため、大切なものを探しているというのですが…。



## 『のっぼのサラ』 見933マ

パトリシア・マクララン／作 徳間書店

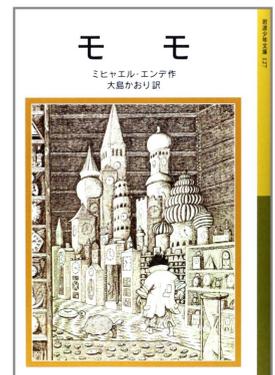
母親を亡くし、さびしい思いをしているアンナと弟ケイレブのために、パパは新聞で新しい奥さんを募集し、それを見たサラがひと月の間来てくれることになりました。サラはのっぼでブサイクですが、いろいろなことを教えてくれます。ママになってくれるのでしょうか。「家族になる」ことを描いた優しい愛の物語。続編『草原のサラ』があります。



## 『モモ』 見943エ

ミヒャエル・エンデ／作 岩波書店

円形劇場跡に住む不思議な女の子モモ。ある日、モモが住む町に灰色の時間どろぼうたちがやってきて、人々の時間を取り上げていきます。人々は急ぎ、ゆったりとした時間を無くし、その生活は追いつめられていきます。モモは盗まれた時間を取り戻すため、時間どろぼうたちと対決します。



## 『名探偵カッレくん』 児949リ

アストリッド・リンドグレン／作 岩波書店

スウェーデンの小さな町に住むカッレは名探偵になることを夢見る13歳の少年。エイナルおじさんの怪しい行動に第六感を働かせ、宝石泥棒であることを見破りますが、お城の地下室に閉じ込められ絶体絶命の大ピンチに！？シリーズに『カッレくんの冒険』『名探偵カッレとスパイ団』があります。



## 『レモンの図書室』 児933コ

ジョー・コットリル／作 小学館

母を亡くし父と二人で暮らすカリブソは、本だけが心のよりどころ。いつもひとりぼっちで想像の世界にひたっていましたが、本をきっかけに転校生のメイと友情を深めていきます。そんなある日、大事にしていた母の形見の本が父に捨てられていて…。本好きな少女たちと家族の、ほろ苦くも心にしみ入る物語。巻末に作中に登場する本の紹介があります。



## 『大きなたまご』 児933ハ

オリバー・バターワース／作 岩波書店

ある朝、ネイトの家で飼っているメンドリが巨大なたまごを産みました。家族とともにハラハラ見守ること6週間、ついにたまごはかえりますが、出てきたのは…！？国中の話題になり、大きくなる恐竜を追放しようとする大人たちを前に、ネイトは愛情をもって一生懸命守っていきます。



## 『よのなかルールブック』 児159ヨ

高濱正伸／監修 日本図書センター

「迷ったときはキツイほうを選ぶ。」

「自分の言葉で話せる人になる。」

「ありがとうを口ぐせに。」

これから厳しい社会に出ていく子ども達が人生を生き抜くために必要なことを、50の「よのなかルール」にして紹介します。



## 『マチルダは小さな大天才』 児938ダ

ロアルド・ダール／著 評論社

マチルダは、3歳になる前に字が読めるようになり、4歳でディケンズやヘミングウェイを読みこなす天才少女。しかし両親はマチルダを「かさぶた」程度にしかならず、「物知らず」「ばか」と怒鳴ってばかり。また学校には、子どもたちに暴力をふるい、虫けらのように扱う女校長ミス・トランチブルが。そんな横暴な大人たちへ、マチルダは頭脳で立ち向かいます。



## 『だれも知らない小さな国』 児913サ

佐藤さとる／作 講談社

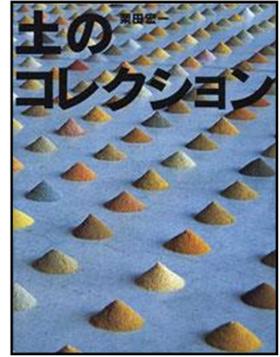
小学3年のぼくはお気に入りの秘密の小山で小さな人（コロボックル）と出会いました。大人になったぼくは、その小山がつぶされる話が広まると、コロボックルたちとその小山を守っていきます。60年ほど前の作品ですが、丁寧で優しく表現され、色あせない名作。全5巻



## 『土のコレクション』 児407ク

栗田宏一／著 フレーベル館

本を開けば、いろいろな色の小さな山。ピンク、オレンジ、黄色、青、紫…。日本全国から集めた様々な土のコレクション。「土ってこんなにきれいだったんだ！」ときっと気づくはず。土の集め方なども詳しくのっています。自由研究のテーマにいかがですか？



## 『天の鹿』 児913ア

安房直子／作 ブッキング

鹿打ちの名人、清十さんの3人の娘たちはそれぞれおしが牡鹿に連れられ、山中の鹿の市に迷い込みます。牡鹿は娘たちの振る舞いを見定めているようですが、たえとあやの言動には苦しげな様子を見せます。末娘みゆきと牡鹿の「運命の出会い」を描いたせつなさあふれる物語。スズキコージさんの描く挿絵も幻想的です。



## 『モギ ちいさな焼きもの師』 児933バ

リンダ・スー・パーク／著 あすなろ書房

両親を亡くしたモギはトゥルミじいさんに引き取られ、橋の下で暮らしています。二人には働くすべもなく、ゴミ捨て場から食べ物を探さなくてははいけません。モギの楽しみは、名焼きもの師ミンの作業をこっそり観察することでした。夢に向かって努力し諦めなかったモギ、貧しくても情けと誇りを忘れないトゥルミじいさん、青磁作り一筋に生きるミンと彼を見守るアジユマ。彼らの生きる姿が心に響く韓国の物語。



## 『野生のロボット』 兎933ブ

ピーター・ブラウン／作・絵 福音館書店

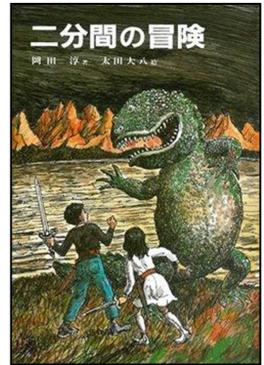
無人島に流れ着いた一体のロボット、ロズ。偶然起動スイッチが押され動き出したロズは、生きていくために野生動物のまねをし、言葉や知恵を学んでいきます。動物たちは、はじめはロズを怪物よばわりしておそれていたけれど…。自然の中で生きるロボットと動物たちの友情を描いた物語です。



## 『二分間の冒険』 兎913才

岡田淳／著 偕成社

小学5年の悟は、運動場の隅で黒猫ダレカに出会い、異世界に連れて行かれます。元いた場所に戻るにはダレカを見つけなければなりません。わかってるのは、ダレカは猫の姿をしていないこと、この世界で一番たしかなものの姿であること。一番たしかなものとは何なのでしょう。悟の長い長い二分間の冒険が始まります。

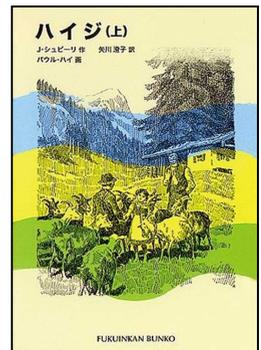


## 『ハイジ』 兎943ス

J・シュペーリ／作 福音館書店

頑固で人付き合いの悪いアルムじいさんのもとへ、ある日孫娘のハイジがやってきます。ハイジはその優しさ、明るさで、病弱なクラウやたくさんの人たちをはげまし、元気にします。

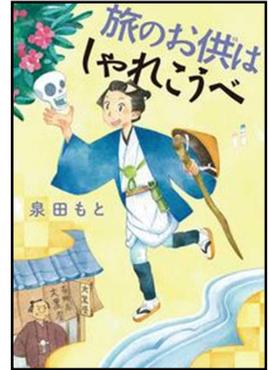
一度はぜひ手に取ってほしい古典の名作。あたたかな気持ちになれる物語。



## 『旅のお供はしゃれこうべ』 児913イ

泉田もと／作 岩崎書店

時は江戸、父からの頼まれ事で旅に出た惣一郎は、連れの奉公人に裏切られ、絶望のふちに。そこで出会ったのは、しゃべるしゃれこうべ助佐でした。真面目だけれど世間知らずの惣一郎と、彼を厳しくも優しくはげますしゃれこうべ助佐のコンビが絶妙。涙と笑いの人情時代小説。



## 『魔女の宅急便』 児913カ

角野栄子／作 福音館書店

13歳の満月の夜、魔女の子キキはひとり立ちの旅に出ました。使える魔法はほうきで空を飛ぶことだけ。たどり着いたコリコの町で、空飛ぶ宅急便屋さんを始めます。相棒の黒猫ジジと悩みや喜びを分かち合いながら、成長していく一年間を描いています。全6巻



## 『小さなバイキングビッケ』 児949ヨ

ルーネル・ヨンソン／作 評論社

ビッケのお父さんはフラーク地方のバイキング族長。大人の海賊に交じってビッケも旅に出ます。スパイ、変装、時には話し合い。決して相手を傷つけません。ビッケから火花が飛び散ったら作戦がひらめいた合図。知恵を働かせてお父さんや仲間のバイキングたちを助けます。小さなバイキングビッケのゆかいな物語。全6巻

